

第1回 千早赤阪村まち・ひと・しごと創生有識者会議

日 時	平成27年8月4日(火) 午後2時～午後3時30分
場 所	保健センター 3階 集団指導室
出席者	吉田(裕)委員長、本多委員、井関委員、堀切委員、山本委員、岡橋委員、宇田委員、豊田委員、吉田(美)委員、参田委員
事務局	まちづくり課：高橋理事、森田課長、安井課長代理、中島主事
傍聴者	1名
会議概要	<ol style="list-style-type: none">1. 開会2. 委員紹介3. 副村長挨拶4. 会議運営について<ol style="list-style-type: none">(1) 本創生有識者会議の公開について5. 議事<ol style="list-style-type: none">(1) 国・地方における人口ビジョン・総合戦略と本村の策定の進め方について(2) 千早赤阪村人口ビジョン(現状分析)と将来人口推計について(3) アンケート調査結果(速報)について(4) その他6. 閉会

【意見概要】

議事(1)：国・地方における人口ビジョン・総合戦略と本村の策定の進め方について

・意見なし

議事(2)：千早赤阪村人口ビジョン(現状分析)と将来人口推計について

○委員

・村の人口増加を図るためには、リタイアした高齢の方を呼び込むよりも、若い世代に住んでもらえるようにしないと将来が見えないので、若い人たちが住んでくれるようにどのように魅力を向上させるかが重要である。若い世代が定着するためには仕事の場や生活基盤の充実が欠かせないと思う。

○委員

・村がとっている子育て世代への施策としてどのようなことを行っているのか説明して欲しい。

○事務局

・第4次総合計画では、地域子育て支援拠点事業として母子保健事業の充実、近隣市町や関係機関との連携により休日診療等を行っている。村独自のものはなかなかなくて近隣の6市町と同様のものとなっている。中学卒業までの子ども子育て医療費の助成事業やひとり親家庭の医療費助成事業等を行っている。

○委員

・定住促進に向けた施策はどのようなことを行っているのか。

○事務局

・本年4月に、空家情報バンク制度を立ち上げた。村に住みたいという方への空家の情報提供をするものであるが、なかなか登録してくれていなくて千早地区の1軒のみが登録されている。逆に希望者は電話も含めて

40件程ある。滋賀県からもわざわざ来訪されたが本村で見つからないため、他市町へ探しにいたり、もったいないことをしているなどという状況である。

- ・定住促進事業として、空家を借りる方、購入される方への改修補助金制度行っている。また、空家に入られた方の家賃補助制度も4月から行っており、小吹台で30歳台の若い方が2組入られた。
- ・滋賀県から来られた方は、大阪府内の自治体のホームページを見たが、トップページで定住促進をしているのが本村しかなかったということで、魅力を感じてやってきたとの事であった。また近隣市町村との会議でも本村の取り組みが先行しているように感じている。
- ・近隣市町村との取り合いよりも府外などもっと広い範囲から村の魅力を感じてもらえるようにしていきたいと思っている。

○委員

- ・小吹台では空家が出てきており、売りに出されているがそのようなものは空家バンクには登録されていないのか。

○事務局

- ・一般住宅地、特に小吹台であるが、空家の家主が不動産業者にお願いしているとので結構ですという声が多かった。また、空家を探している人は古民家を希望している人が多い。

○委員

- ・資料の中で、2005年のみ転入者が多くなっているが、これはどのような理由によるものか。

○事務局

- ・市街化区域内の開発（オレンジヒルでのミニ開発）があったことによるものと思っている。開発があって人が増えればこのような現象になる。

○委員

- ・もう同じような開発が起きるような場所はないのか。

○事務局

- ・オレンジヒルは市街化区域内の唯一の空閑地であった。他の所でも少しずつ開発できる場所がないか協議中である。

議事（3）：アンケート調査結果（速報）について

○委員

- ・アンケートの回答率が低いとその理由はどのようなことだと想定されるか。

○事務局

- ・個人宛ではなく世帯に配布したのがよくなかったのではないかとと思っている。また、18歳以上の若い方にとお願いしたにもかかわらずその意図がうまく伝わらず、高齢者の方が回答したようだ。

○委員

- ・世帯に1通というアンケートは無理があると思う。誰か代表して書くとなると年配の方の回答になってしまうと思われる。

○委員

- ・私は、このアンケートが自宅に来たのは知らなかった。アンケートは、個人宛にするべきだと思う。そうでないと誰かが出すだろうとなって回収率が落ちると思う。

○委員

- ・農業されている方は高齢になっているが、定年したら農業をしたいという方も増えてきている。しかし、農

業だけで食べていける状況ではないので儲かる農業の形を取らないと農業専業で食べていくのは難しい。

- ・空いたハウスを活用したイチゴ栽培を大阪市内から来てやっているが、そのようなことを地元の人がやれないのかなとは思っている。今来ている人は、ノウハウを蓄積してきており、場所と販売先を確保できればなんとかやっていけるということで公的資金を借りてやっている。
- ・空きハウスは増える可能性があるので、村の方で研修施設を紹介するなどすると、農業で生計を立てる人が出てくるのではないかと考えている。

○委員

- ・村内に大阪で唯一の原木市場を持っているのであるが、バイオマスは今後新しい展開というのはいくらもある話である。採算性というのが最も大切であるが、この地域の山は急峻で大きな機械が入らないのであるが、如何にしてこの地域で林業をしていくかということ山主さんの高齢化が課題である。

○委員

- ・富田林などの企業オーナーと話をしたが、近年景気が良いようで工場用地等が手狭になっており、近隣で探しているがなかなか見つからないという状況である。なかなか工業専用の土地や場所がない。ここ2～3年は景気がよいが、今後どうなるかわからないので、企業誘致をするとすると、競争でありスピード感を持って対処し雇用を生み出す必要がある。近隣市町も同様の悩みを持っており、焦っているので早い者勝ちであると思う。
- ・また、歴史があるので、歴史をPRする中で工業とは違う意味で産業を生みだし、村を活性化させ人を呼び込んでいく必要がある。
- ・アンケートについてもアンケート結果を踏まえ施策を講じないと、アンケートしても何もないと2回目3回目と続かなくなっていくと思う。

○委員

- ・子どもに対して手厚くしてもらっていると思うが、子育て世代に本村の住みやすさが伝わっていないように思う。車でスーパーまではすぐなのに、友人に村に住んでいるというときすごい山に住んでいると勘違いされる。
- ・小吹台へ移ってくる方は、もともと小吹台の人か村内の人で、外から来る人はあまり聞かない感じがするので、子育て世代に本村の住みやすさが伝わるともっと来てくれるのではないかと考えている。

○委員

- ・本村には、土日の釣り客が多く集客力がありすごいと思う。ビジターセンターの施策は思い切ってやっていただくことや宣伝することによって、良い村づくり環境づくりができるのではないかと考えている。

○委員

- ・NHKで本村の釣り、豆腐、棚田等を紹介していたが、もっと宣伝して棚田米などが一つの商品にできれば良いのであるが、宣伝等については積極的に力を入れていく必要があると思う。このような分野はイメージがわきやすいが、農業、林業、企業誘致というのはなかなかイメージがわきづらいところがある。市街化調整区域についても建物が建てられないとかの規制あり、我々もどのような形で解除していけるか、府とも調整しながら家が1軒でも2軒でも建てることできないのか検討している。